

工事仕様書
I 工事概要
1. 工事場所
2. 敷地面積
3. 工事建物の概要
II 建築工事仕様
1. 共通仕様
2. 特記仕様
III 表目
1. 一般共通事項
2. 工事実績情報サービス
3. 養生材の処理等
4. 品質計画
5. 電気保安技術者
6. 設計GL、BM
7. 既存部分等への処置
8. 別契約の関連工事
9. 材料の品質等
10. 環境への配慮

11. 化学物質の濃度測定
12. 技能士
13. 工事写真等
14. 完成図等
15. 文化財その他の埋蔵物
16. 火災保険等
17. 監督員事務所
18. 仮設工事

3 土工事
4 地業工事
5 鉄筋工事
6 コンクリート工事
7 鉄骨工事
8 鉄骨工
9 鉄骨工
10 鉄骨工
11 鉄骨工
12 鉄骨工
13 鉄骨工
14 鉄骨工
15 鉄骨工
16 鉄骨工
17 鉄骨工
18 鉄骨工
19 鉄骨工
20 鉄骨工
21 鉄骨工
22 鉄骨工
23 鉄骨工
24 鉄骨工
25 鉄骨工
26 鉄骨工
27 鉄骨工
28 鉄骨工
29 鉄骨工
30 鉄骨工
31 鉄骨工
32 鉄骨工
33 鉄骨工
34 鉄骨工
35 鉄骨工
36 鉄骨工
37 鉄骨工
38 鉄骨工
39 鉄骨工
40 鉄骨工
41 鉄骨工
42 鉄骨工
43 鉄骨工
44 鉄骨工
45 鉄骨工
46 鉄骨工
47 鉄骨工
48 鉄骨工
49 鉄骨工
50 鉄骨工
51 鉄骨工
52 鉄骨工
53 鉄骨工
54 鉄骨工
55 鉄骨工
56 鉄骨工
57 鉄骨工
58 鉄骨工
59 鉄骨工
60 鉄骨工
61 鉄骨工
62 鉄骨工
63 鉄骨工
64 鉄骨工
65 鉄骨工
66 鉄骨工
67 鉄骨工
68 鉄骨工
69 鉄骨工
70 鉄骨工
71 鉄骨工
72 鉄骨工
73 鉄骨工
74 鉄骨工
75 鉄骨工
76 鉄骨工
77 鉄骨工
78 鉄骨工
79 鉄骨工
80 鉄骨工
81 鉄骨工
82 鉄骨工
83 鉄骨工
84 鉄骨工
85 鉄骨工
86 鉄骨工
87 鉄骨工
88 鉄骨工
89 鉄骨工
90 鉄骨工
91 鉄骨工
92 鉄骨工
93 鉄骨工
94 鉄骨工
95 鉄骨工
96 鉄骨工
97 鉄骨工
98 鉄骨工
99 鉄骨工
100 鉄骨工

5. 杭頭の補強方法
6. 帯筋
7. 壁開口部の補強
8. 土間スラブ打継ぎ補強
9. 土間コンクリート補強
10. 梁貫通孔
11. 圧接完了後の試験
12. 設計基準強度 (F_o)
13. レディーミストコンクリート
14. 気乾単位容積質量
15. 単位水量の測定
16. コンクリートの仕上り
17. セメントの種類
18. 骨材の種類
19. 混和材料
20. 打継ぎ
21. 層中コンクリート
22. 型枠
23. 無筋コンクリート
24. 打継止水材
25. コンクリートの強度試験
26. 鉄骨の製作工場
27. 施工管理技術者
28. 鋼材の種類
29. 高力ボルト
30. 普通ボルト

7 鉄骨工事
6. アンカーボルト
7. ターンバックル
8. 床構造用のデッキプレート
9. スクラップエンドタブの切除
10. 柱座均しモルタル
11. 工作一般
12. 溶接接合
13. 溶接部の試験
14. 錆止め塗装
15. 耐火保護
16. 鉄の垂れめっき

9 防水工事
1. アスファルト防水
2. 改質アスファルトシート防水
3. 合成高分子ルーフィングシート防水

8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事
1. 補強コンクリートブロック造
2. コンクリートブロック積層壁及び柱
3. ALCパネル
4. 押出成形セメント板

10 石工事
1. 施工
2. 石材等
3. 外壁湿式工法
4. 内壁空積工法
5. 乾式工法
6. 床及び階段の石張り
7. アーチ、上り裏等の石張り
8. 笠木、甲板等の石張り

11 タイル工事
1. 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地
2. タイル張り
3. タイルの種類
4. 標準的な曲がりの設物は一体成形とする
5. 目直し工法 (高圧水洗処理)・MCR工法
6. 壁タイル張りの工法

12 木工事
1. 表面仕上げ
2. 製材
3. 造作用集材
4. 造作用単板積層材
5. 合板等

12 木工事
5. 合板等 (続き)
・下地用構造用合板
・「合板の日本農林規格」による化粧り構造用合板
・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板
・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板
・パーティクルボード
6. 接着剤
7. 防蟻・防蟻

14 金属工事
1. ステンレス表仕上げ
2. アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理
3. 鉄鋼の亜鉛めっき
4. 軽量鉄骨天井下地
5. 軽量鉄骨地下地
6. 金属成形板張り
7. アルミニウム製塗木
8. 手すり・タラップ

13 屋根及び土工事
1. 長尺金属板葺
2. 折板葺
3. とい

15 左官工事
1. モルタル塗り
2. セルフレベリング材塗り
3. ラス系下地
4. 仕上塗材仕上げ

16 建築工事
・複層仕上塗材
5. 下地処理
6. マステック塗料塗り
7. せつこうプラスター塗り
8. ロックウール吹付け
9. しっくい塗り
10. こまい壁塗り
11. 防犯建築物
12. アルミニウム製塗木
3. 網戸等
4. 樹脂製塗木

5. 鋼製建具
6. 鋼製軽量建具
7. ステンレス製建具
8. 木製建具
9. 建具用金物
10. 自動ドア開閉装置
11. 自閉式上吊り引閉装置
12. 重量シャッター
13. 軽量シャッター
14. オーバーヘッドドア
15. ガラス・ガラスブロック
16. ガラス留め材
17. ガラス用フィルム
18. 衝突防止表示
19. 錠番

17. カウンタートップ工事

1. 性能 (16. 2. 2) (17. 1. 3)

耐風圧性	※1/200	()	
耐震性 (層間変形角)	※1/200	()	
水密性			
気密性			
耐火性	※30分	※1時間	()
耐温度差性	※80℃	※70℃	※60℃
遮音性	等級 ()		
耐熱性	等級 ()		
性能の確認・判定方法			

2. メタルカーテンウォール (17. 2. 2)

使用する金属材料の種類

- アルミニウム材
- 鋼材
- ステンレス鋼材

シーリング材及びガラス留材

下記以外は標準仕様書表9. 7. 1による

被着体の組合せ		記号	シーリング材の種類	
ガラス	ガラス		主成分による区分	耐久性による区分
ガラス	ガラス			

構造用スケット

- ※適用しない
- ※適用する (施工箇所等詳細は図示)

断熱材	
-----	--

製品及び取付位置の寸法許容差 ※標準仕様書表17. 2. 1~3による

ガラスの寸法、形状 ※カーテンウォールの製造所の仕様による

7. 合成樹脂塗床 (19. 4. 2. 3) (表19. 4. 1~8)

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
厚膜型塗床材			※平滑仕上げ
弾性引伸樹脂系塗床			※平滑仕上げ・つや消し仕上げ
※厚膜型塗床材		※薄膜流しの工法	※平滑仕上げ
1層引伸樹脂系塗床		※厚膜流しの工法	※平滑仕上げ
		※樹脂モルタル工法	※平滑仕上げ
薄膜型塗床材			※平滑仕上げ

塗料のホルムアルデヒド放数量 ※規制対象外品

8. フローリング張り (19. 5. 2~6) (表19. 5. 1~6)

単層フローリング (フローリングボード1等)

工法

- 釘留め工法 (根太張り・直張り)
- 接着工法

樹種

- ※なら

間伐材の適用

- ※適用する
- ※適用しない

単層フローリング (フローリングブロック1等)

樹種

- ※なら

厚さ

- ※

大きさ

- ※

間伐材の適用

- ※適用する
- ※適用しない

複合フローリング

工法

- 釘留め工法 (根太張り・直張り)
- 接着工法

樹種

- ※なら

種別

- ※A種
- ※B種
- ※C種

間伐材の適用

- ※適用する
- ※適用しない

ホルムアルデヒドの放数量 ※規制対象外品

接着工法の場合の裏面被覆材 ※合成樹脂発泡シート

現場産仕上げ ※引伸樹脂系塗床

※材(引伸の上、ワックス塗り

※生地のままワックス塗り

(表19. 6. 1)

種別	A種	B種	C種	D種	(A)~(I)	(II)	(III)	(IV)	(V)	(VI)	(VII)
----	----	----	----	----	---------	------	-------	------	-----	------	-------

9. 敷敷き

10. セッコボードその他ボード及び合板張り (19. 7. 2. 3) (表19. 7. 1)

ホルムアルデヒドの放数量 ※規制対象外品

木質系セメント板

- 種類・厚さ (※図示)

繊維板

- 種類・厚さ (※図示)

パーティクルボード

- 種類・厚さ (※図示)

吸音材料

- 種類・厚さ (※図示)

セッコボード

- 種類・厚さ (※図示)

普通合板

- 表面の樹種名
- 板面の品質
- 厚さ
- 接着の程度
- 防火処理

天然木化粧合板

- 化粧材の樹種名
- 厚さ
- 接着の程度
- 防火処理

特殊加工化粧合板

- 化粧加工の方法 (オーバーレイ・プリント・塗装)
- 表面性能
- 厚さ
- 接着の程度
- 防火処理

セッコボード等の下地 ※図示

遮音シート材

- ※適用する (※77%系または94%系シート材・「ジイコバウ」(JIS A 6914))
- ※適用しない

合板張りの張付け

- ※A種
- ※B種

セッコボードの目地工法 ※仕上表による

11. 壁紙張り (19. 8. 2)

施工箇所	種別	防火性能	参考商品名
ビニル	織物	無機質 ()	(下地込)
		不燃	
		準不燃	
		不燃	
		準不燃	
		不燃	
		準不燃	

フェノールフォームを使用した断熱材のホルムアルデヒド放数量 ※規制対象外品

打込み断熱材 (JIS A 9521による) (19. 9. 2)

材種	厚さ (mm)	備考
ビーズ法		
※押出法		
硬質ウレタン断熱材		
ポリイソシアネート断熱材		
ビーズ法		

施工箇所

- 床版 (屋根スラブ下・接床版(7-01-2))
- 壁

現場発泡断熱材 (※A種1種又はA種1H) (19. 9. 3)

難燃性	厚さ (mm)	施工箇所
難燃性を有すること	※25	※窓廻り等の断熱材補修部分、ルーフトレンドレンドレの床版下等、部分的に後張りとなしなればならない箇所
	※30	()
	()	()

12. 断熱材 (19. 9. 2)

乾式遮音二重床用床下地材 (樹脂製支柱式) 断熱性床下地材

乱数及び建築物の遮音性能基準と設計指針 (第2版) (日本建築学会) で規定する「床衝撃レベルに関する適用等級」2級程度を有するものとし、製造所の仕様による

施工箇所	床仕上げ材高さ (mm)	遮音性能 (スラブ厚150mm)
壁下地	※150	※180
フローリング類下地	()	()

JIS規格品 (JIS A 6903) 厚さ ※1.2mm ()

13. 床下地材

14. メラミン樹脂化粧板

15. 化粧性床シート

18. 塗装工事

1. 材料 (18. 1. 3)

内部に使用する塗料は、原則水性系のものとする

- ※屋内の壁及び天井の塗装仕上げ材は、建築基準法に基づく防火材料の指定又は認定を受けたものとする

適用範囲外 ()

室内で使用する塗料のホルムアルデヒド放数量

- ※規制対象外品
- ※第三種品

仕上げ表に記載

- ※標準仕様書表18. 2. 2~7による

(7. 8. 4. 18. 3. 2~3)

下地等		工程の種類		塗料の種類	
鉄鋼面	見え隠り部分	※A種	※B種	※A種	※B種
	見え隠れ部分	※A種	※B種	※A種	※B種
亜鉛めっき鋼面	鋼製建具等	※A種	※B種	※A種	※B種
	鋼製建具等以外	※A種	※B種	※A種	※B種

2. 床ごしらえ

3. 錆止め塗料塗り

4. 塗装

塗装の種類、種類

- ※仕上げ表に記載
- ※標準仕様書 (18. 4. 1~18. 13. 2) による

19. 内装工事

1. 接着剤 (19. 2. 2)

接着剤のホルムアルデヒド放数量

- ※規制対象外品 ()

下地がセメント系下地及び木質系以外の場合の接着剤 () (表19. 2. 1)

(19. 2. 2) (19. 2. 3)

種類の記号	色柄	厚さ (mm)	備考
※FS (複層ビニルシート)	無地	※2. 0	
	※木目柄		
	※柄柄		

目地処理する場合の工法 ※熱溶接工法

(19. 2. 2) (19. 2. 3)

種類の記号	色柄	寸法	厚さ (mm)	備考
※TT (単層ビニル床材(接着型))	※無地	※300×300	※2. 0	
※FT (複層ビニル床材(接着型))	※柄柄	※450×450		
※KT (複層ビニル床材(接着型))	※柄柄	※500×500		
※FA (置敷きビニル床材(置敷き型))				
※FB (置敷きビニル床材(置敷き型))				

2. ビニル床シート (19. 2. 2) (19. 2. 3)

3. ビニル床タイル (19. 2. 2) (19. 2. 3)

4. 特殊機能床材 (19. 2. 2) (19. 2. 3)

帯電防止床シート

- 種類 ()
- 性能 ()
- 厚さ (mm)

帯電防止床タイル

- 種類 ()
- 性能 ()
- 寸法 厚さ (x mm)

視覚障害者用床タイル

- 種類 ()
- 形状 ()

耐動荷重性床シート

- 種類 ()
- 厚さ (mm)

防滑性床シート

- 種類 ()
- 厚さ (mm)

防滑性床タイル

- 種類 ()
- 寸法 厚さ (x mm)

5. ビニル床木 (19. 2. 2)

材質	厚さ (mm)	高さ (mm)
※軟質	※1. 5以上	※60・75・100

6. カーペット敷き (19. 3. 1~3) (表19. 3. 1~2)

種別	パイルの形状	寸法 (mm)	厚さ (mm)	色柄	備考
※第一種	※ループパイル	※500角	※6. 5	※無地	帯電防止及び防汚加工品
※第二種	※カットパイル	()	()	※柄柄	
	※カットループ併用	()	()	()	

タイルカーペットの敷き方

- ※市松敷き
- ※横流し
- ※市松敷き
- ※縦流し

16. システム天井

種別	Tバーの材質	備考
ラインタイプ	シングル	アルミニウム製
	ダブル	鋼製
ロケットタイプ		

下記に示す製造所の商品程度とする ()

17. 浴室天井材

材質	幅 (mm)	備考
※硬質ビニル製	※300	断熱材を表打ちしたものを付属品の材料は主製造所の仕様による
アルミニウム製 (準不燃品)	※100	()

20. ユニネット及びその他工事

1. フリーアクセスフロア (20. 2. 2)

施工箇所	寸法 (mm)	高さ (mm)	所定荷重 (N)	表面仕上材	備考
	※450角以上	※100	※3000	※帯電防止床タイル	
	600角以下	※120	※5000	※操作棒	

適用地震時水平力

- 1階及び地階 中間階 (~ 階) 最上階 ()

帯電防止床タイル

- ※2本操作棒方式
- ※1本操作棒方式

寸法精度

- ※(20. 2. 2) (2) (a) ~ (c) による

パネルの長さ

- ※各辺の長さが500mmを超える場合
- 500mm以下の場合

パネルの平面形状 (角度)

- ※各辺の長さが500mmを超える場合
- 500mm以下の場合

フリーアクセスフロアの高さ

- ※±0. 5mm以内

(性能・試験方法)

ローリングロード性能

- ※適用する
- ※適用しない

ローリングロード試験

所定荷重 1. 000N (5. 000Nの積載荷重は1. 000N以上 (任意)) による繰り返し試験後、残留変形 3. 0mm以下であること

(パネル面に目視による著しいわだち及び損傷がないこと。かつ、使用上有害なものがたつきがないこと)

2重床用複合アウトレット用開口

- 開口の数 フロア面積 8㎡につき1箇所かつ予備開口を14㎡につき1箇所
- 開口の大きさ コンセント(電源): 2P15A接地極付×2 情報用モジュラージャック(電話): 8極8芯×1の入ったアウトレットが結末の大きさ

取付方法

- フリーアクセスフロア製造所の仕様とする

2. 可動間仕切 (バリエーション)

構造形式	構成基材の種類	パネル表面材	遮音性能	防火	備考
スタッド式 (内蔵)	スタッド	パネル	(db/500Hz)		
スタッド式 (露出)					
パネル式					
スタッドパネル式					

パネル内に取付ける建具

- ※あり (※図示)
- なし

ドアローザ、ト番、錠前、上げ落としは、標準仕様書第16巻8節による

ガラス留材

- ※ガスケット
- ※シーリング

3. 移動間仕切 (スライディングウォール) (20. 2. 4)

構造形式	操作方法	圧縮装置の構造	総厚さ (mm)	パネル表面材	遮音性能
平行方向 移動式	※手動式	※フッシュ式	※60程度	※鋼板	※焼付塗装
二方向 移動式	※電動式	※ハンドル式	※100程度	※鋼板	※焼付塗装
	※手動式	※ハンドル式	※100程度	※鋼板	※焼付塗装

遮音性能はJIS A 6512に準拠し、中心周波数500Hzの音についての透過損失とする

4. トイレブース (20. 2. 5)

表面材の材料	色柄	脚部	ドアエッジ
※メラミン樹脂系化粧板	※無地	※幅木タイプ	※標準
※ポリエステル樹脂系化粧板	※柄柄	※R	※R

吊り方式

- ※中心吊
- ※吊当り付

5. 階段滑り止め (20. 2. 6)

材質

- ※ステンレス製 (SUS304)
- ※貴銅製押出型材
- ※7系アルミニウム製押出型材

滑り止め材

- 形状
- ※ひも状
- ※タイヤ型

材質

- ゴム又は合成樹脂

両端フラットエンド

- ※あり (ステンレス製 ※ビニル製)
- なし

幅 (mm)

- 約35

取付け工法

- ※接着工法
- ※埋込み工法

6. 手すり

形式	径	材種	仕上
※1段	※35φ	※タモ	※C L
※2段	※35φ	()	()

7. 床目地枠

床仕上げの異なる箇所には目地枠を入れる

- ※ステンレス製 (幅40程度) (1. 5)
- ※ステンレス製 6×12
- ※貴銅製 6×12

8. 黒板及びホワイトボード (20. 2. 8)

- ※黒板
- ※焼き付け
- ※鋼製黒板
- ※ほうろう黒板
- ※黒
- ※白
- ※ホワイトボード

9. 鏡 (20. 2. 9)

取付箇所、寸法

- ※図示
- ※厚さ (mm)
- ※5

10. 煙突ライニング (20. 2. 11)

煙突用成形ライニング材

- ※適用安全使用温度 (上限温度) ※400℃
- ※650℃

煙突用安全使用温度 (下限温度)

- ※650℃

キャスタブル耐火材

- ※煙突用成形ライニング材の製造所の指定する製品とする

11. ブラインド (20. 2. 12)

形式	操作方法	種類	スラットの材種	スラット幅 (mm)	ワックス・ローの材種	寸法	取付箇所
※手動	※ギヤ式	※アルミニウム合金製	※25	※鋼製	※図示		
※電動	---	---	---	---	---		
※手動	※2本操作棒方式	※アルミスラット	※80	※7系アルミニウム合金製	※図示		
※電動	---	---	---	---	---		

12. ロールスクリーン (20. 2. 13)

材種	操作方式	寸法 (mm)	取付箇所	品質等
※引継製	※電動式	※図示	※図示	
※合成・天然繊維製	※スプリング式	()	()	
※木製	※コード式	()	()	

その他の材料

- ※ロールスクリーンの製造所の仕様による

(20. 2. 14) (表20. 2. 1)

施工箇所	ひだの種類	形式	開閉装置	参考商品名

14. カーテンレール (20. 2. 14)

材料による区分

- ※アルミニウム製又はアルミニウム合金の押出成型材
- ※ステンレス製

長さによる区分

- ※10~90

仕上げ

- ※アルマイト

形状

- ※角形

溝型×深さ (mm)

- ※90×150
- ※120×80
- ※120×150
- ※150×80

図示

材質

- ※集成材 (仕上げ)
- ※アルミニウム製 押出し型材 (市販品)
- ※鋼製 (仕上げ)

15. カーテンボックス及びブラインドボックス

材質

- ※アルミニウム製押出型材
- ※塩化ビニル製

16. コーナービード (壁ボード出隅保護金物)

材質

- ※アルミニウム製
- ※焼付 ()

17. 天井見切縁

材質

- ※アルミニウム製
- ※塩化ビニル製

18. ピクチャーレール

材質

- ※アルミニウム製押出型材
- ※耐荷重30kg程度
- フック 2個/㎡

19. 天井点検口

材質

- アルミニウム製 (※縦横タイプ)
- ※目地タイプ

20. 床点検口

材質

- アルミニウム製 (受け枠 ※アルミ製)
- ※ステンレス製

21. 消火器ボックス

※市販品 (埋込みタイプ)

材質	仕上	寸法	扉	表示
※鋼製	※焼付塗装	※W300×H300程度	※有り	※絵・文字表示

22. ステンレス流し台

※優良住宅部品 (セクショナルキッチン) ()

上板及びシンク底部はステンレス製、単槽シンク、トラップ付

寸法	開戸	引き出し	備考
※W1200×D650~600×H800	※3枚 ()	※1段 ()	
※W1500×D650~600×H800	※4枚 (1~2枚)	※1段 ()	※サイド
※W1800×D650~600×H800	※4枚 ()	※1段 ()	※パネル付

23. コンロ台

※優良住宅部品 (セクショナルキッチン) ()

テーブルトップはステンレス製、バックガード (※有・無し)

寸法 (mm)	開戸
※W700×D550~600×H620	※2枚 ()
※W600×D550~600×H620	※1枚又は2枚 ()

24. 吊戸棚

※優良住宅部品 (セクショナルキッチン) ()

寸法 (mm)	開戸	扉板
※W900×D350~450×H500	※2枚 ()	※1段 ()
※W600×D350~450×H500	※2枚 ()	※1段 ()

25. 水切棚

※既製品

- ※ステンレス製一般型 ()

26. フード

※市販品 (レンジフード) (参考商品名:)

- ※標準詳細図6-11-2
- ※ステンレス板厚 ※0. 4
- ※1. 0

27. くつきマット

材質

- ※ステンレス製ノンスリップ型 (縁金物: ステンレス製)
- ※塩化ビニル製またはゴム製 (縁金物: ステンレス製)

28. 視覚障害者用床タイル (19. 2. 2)

視覚障害者用ブロック等の突起の形状およびその配列は JIS T 9251による

施工箇所	材質	寸法 (mm)	厚さ (mm)
屋内	※塩化ビニル製	※300角	※7. 0
	※セラミックタイル	※300角	※17程度
屋外	※レジコンクリート製	※300角	※30
	※セラミックタイル	※300角	※17程度
	※レジコンクリート製	※300角	※30

※樹脂系点字紙 (タイルカーペット用)

- 寸法
- ※300角
- ※500角
- 色
- ※黄色

樹脂系点字紙の取付は、両面からの嵌り込みホック式または接着式

Main specification table with multiple columns and rows, containing detailed technical requirements for various construction materials and methods. Includes sections for asphalt, concrete, drainage, and paving materials.

Main table containing project details, specifications, and tables for material management and safety. Includes sections for '解体特記仕様書', '1 一般共通事項', '2 仮設工事', '3 解体方法', and '4 建設廃棄物の処理'. Contains multiple tables for material lists and safety protocols.

電気設備工事仕様書

1. 工事概要
1.1 工事場所
1.2 建物概要
建物名称, 構造, 階数, 延床面積 (㎡), 消防法令別表第一, 備考

3. 工事種目 (●印をつけたものを適用する)
建築物及び屋外工事種目
動力設備, 電灯設備, 雷保護設備, 受変電設備, 電力貯蔵設備, 発電設備, 電話設備, 構内交換設備, 構内情報通信網設備, 防犯・入退室管理設備, 拡声設備 (非常放送), 映像・音響設備, 情報表示設備, 誘導支援設備 (インフォ), テレビ共同受信設備, 監視カメラ設備, 自動火災報知設備, 自動閉鎖設備, ガス漏れ火災警報設備, 中央監視制御設備, 昇降機設備, 構内配電線路, 構内通信線路

2. 工事仕様
2.1 一般仕様
(1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(電気設備工編) (平成31年版)」(以下、「標準仕様書」という。)...
(2) 機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。
2.2 特記仕様
●印、項目は番号に○印、特記項目は◎印をそれぞれつけたものを適用する。

章 項目 特記
1 機材等
2 機材の品質・性能証明
3 電気工作物の種類
4 電気保安技術者
5 電気工事士
6 工事用電力・水
7 工事用仮設物
8 監督員事務所
9 足場その他
10 工事写真等
11 完成図書等
12 施工計画書
13 原形復旧
14 撤去後の補修
15 他工事との取合い
16 発生材の処理
17 アスベスト含有調査について
18 再有用機器
19 残土処理

20 配管・配線等
21 支持金物その他
22 配線プレート等
23 防火・耐燃性等
24 断熱結露防止
25 身体障害者のための国際シンボルマーク
26 耐震措置
● 一般共通事項
27 施工調査
28 既存躯体への穿孔
1 設備概要
2 機器への接続
3 電動機等の接地
4 電動機等の力率の改善
5 保護継電器
6 その他
1 照明器具の接地
2 配線器具類
3 予備配管
4 その他
1 受雷部
2 避雷導体
3 接地極
4 その他
1 盤形式
2 変圧器の種類
3 基礎
4 配線ビット及び蓋
5 接地工事
6 消火器
7 機器詳細
1 形式
2 蓄電池
3 基礎
4 消火器
5 機器詳細
◎分電盤、制御盤以降及び各通信機器間(幹線部分は除く)の配管、配線とその経路、サイズ本数は設備機能を優先し、図面表示と多少相違してもよい。
◎露出配管は調べポイント2回塗り(・屋外(外面被覆鋼管を除く)・屋内(図面に特記する))
◎厚鋼電線管は全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする。
◎長さ1m以上の入線しない管路には、1、2mm以上のビニル被覆鉄線を入れる。
◎屋外の支持金物、ボルト及びナットなどは溶融亜鉛メッキ仕上げ又はステンレス製とする。
◎特記あるもの及び特殊なものを除いて(・新金属・ステンレス・樹脂)とする。
◎カバープレート等の刻印は原則として別表による。
◎雨線外で使用する機器等は全て防水型とする。
◎海岸線4km以内の屋外機材はすべて耐塩型とする。
◎建築工事にてフォームポリスチレン板打ち込みの箇所に取り付ける位置ボックス等は断熱、結露防止処理を行う。
◎合成樹脂製とし、寸法t5×150×150で白地に青とする。
設備機器の固定は、次に示す事項を除き、すべて「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」による。
1) 設計用水平地震力
機器の重量[kN]に、設計用水平地震を乗じたものとする。なお、特記無き場合、設計用水平地震は次による。
設計用標準水平震度
設置場所 機器種別
上層階の屋上及び塔屋
中間階
地下・1階
(注) 上層階の定義は次による。
2~6階建の場合は最上階、7~9階建の場合は上層2階、10~12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階
中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの。
重要機器は次のものを示す。
◎改修標準仕様書によるほか、下記による。
事前調査(・本工事・別途工事)
調査項目(・工事内容)
調査範囲(・図示・工事範囲)
調査方法(・図示・目視・既存図)
・非破壊検査による埋設物の調査をする。
なお、範囲は監督職員の指示によるものとし、費用は別途とする。
・原則として、穿孔機械を使用し既存躯体に穿孔する場合は、金属探知により電源供給が停止できる付属装置等を用いて施工すること。
◎給排水・消火・換気・空気調和・排煙・昇降機
◎本工事制御盤より別途電動機等への接続は本工事とする。
◎専用線接地・金属管接地(7.5kw以下)
◎()
◎本工事に含む制御盤には各負荷毎に力率改善コンデンサーを取り付ける。
◎過負荷、欠相、逆相継電器は熱動型とする。
◎赤指針付電流計(定格電流指示)
◎コードペンダント以外の放電灯器具、LED照明器具及び水気のある場所の白熱灯器具は接地する。なお金属管配線の場合は、配管を利用してよい。(乾燥した場所のコンパクト形器具(27W以下)を除く)
なお、接地線は次による。
ケーブル配線の場合は1.6mmの絶縁電線(緑色)を添える。ただし、電灯配線と同一太さのケーブルの1芯(緑色)を使用してもよい。
◎特記によるもの以外は大型適用型とする。
◎電源の種類により色を区別する。
◎埋込型分電盤からの立上り予備配管は予備の配線用遮断器数に応じて次のように設ける。
スラブ天井の場合は、天井又は梁下200mmまで立上げ、アウトレットボックスを取り付ける。
二重天井の場合は、天井内まで立上げ、アウトレットボックスを取り付ける。
◎配管は、予備の配線遮断器が4個以下の場合は(22)×1、5個以上の場合は(22)×2とする。
◎突針・棟上導体・金属製手摺等
◎銅より線(sq)・建築構造体利用
◎単独(鋼板埋設)・建築構造体利用
◎開放型・閉鎖型・壁面型・特記
◎中通路
◎屋外型・屋内型・特記
◎油入・乾式・モールド(・F種・B種)
◎本工事・別途
◎本工事・別途
◎A種・B種・C種共同・A種・C種共同・B種単独・()
◎各種単独・避雷器単独・()
◎ABC10型、収納箱共・別途・()
◎別図による。
◎屋内キュービクル形・開放形
◎据置鉛蓄電池(・ペント式・制御弁式・())・ニッケル・カドミウムアルカリ蓄電池
◎減政警報装置・温度警報装置
◎本工事・別途
◎ABC10型、収納箱共・別途・()
◎別図による。

発電設備
1 発電機
2 原動機
3 ラジエーター
4 燃焼料槽
5 基礎
6 配線ビット及び蓋
7 機器吊上用フック
8 消火器
9 機器詳細
1 交換機の種類
2 回線数
3 電話機の種類
4 配線
5 機器詳細
1 増幅器の種類
2 機器詳細
1 出退表示装置
2 時刻表示装置
3 その他
1 通話方式
2 形
3 その他
1 受信方式
2 支持ポール
3 電界強度測定
4 機器詳細
1 自動火災報知装置
2 住戸用自動火災報知装置
3 非常警報装置
4 その他
1 自動閉鎖装置
2 その他
1 ガス漏れ火災警報装置
2 その他
1 昇降機
2 用
3 高調波対策
4 機器詳細
1 地中線式の余長
2 装柱機材
3 外灯ポール
4 外灯ポール
5 外灯ポール
6 その他
1 地中線式の余長
2 地中線埋設表示
3 その他
・三相3線式(V)
・ディーゼルエンジン・ガスタービンエンジン
・電気始動式・空気始動式
・軽油・A重油・灯油
・空冷式・水冷式
・本工事(・別慶・搭載)・別途
・本工事・別途
・本工事・別途
・本工事(tヶ所)・別途
・ABC10型、収納箱共・別途
・別図による。
・ボタン電話装置・交換機(・デジタル・アナログ)
・局線(実装/容量)・内線(実装/容量)
・デジタル式・アナログ式
・取り付け電話器1台につき下記電線を取り付ける。ワイヤプロテクター1.5mを見込む
・EM-TIEF 0.65-2C 2m
・EM-BTIEE 0.4-2P 2m
・別図による。
・一般放送用・非常放送用・一般非常兼用
・デスク形・卓上形・壁掛形
・自立形・ラック架組込
・別図による。
表示の種類
表示盤
回路数()
発信機
親時計
回線数()
・出退
・単体
・複合盤に組込
・情報表示
・トイレ呼出・()
・埋込形
・卓上形
・自立形
・ラック架組込
・同時通話
・相互通話
・壁掛形・卓上形
・複合盤に組込
・特記
・子機
・壁掛形
・卓上形
・埋込形
・玄関受付形
・特記
・共同受信
・直接受信
・CATV
・壁面3点支持形
・自立型基礎(・本工事・別途)
・躯体上がり時に測定結果の提出
・別図による。
方式
受信機
回線数
副受信機
同回線数
発信機、表示灯
消火ポンプ連動
感知器
総合盤
消火栓起動ルー
インターロック
形式
・P形(級)
・R形(級)
・単体
・複合防災盤
・火報(実装/容量)
・警報報(実装/容量)
・特記
・単体
・複合防災盤
・火報(実装/容量)
・警報報(実装/容量)
・特記
・単体
・総合盤
・消火栓組込
・発信機連動
・発信機連動
・消火栓組込(単独)
・作動確認付
・耐熱端子接続
・本工事(・2A・4A)
・別途
・P形(級)
・単体
・遠隔試験端子付
・作動確認付
・単体
・露出形
方式
回線数
連動制御器
・防火戸
・防火シャッター
・防煙ダンバ(実装/容量)
・単体
・複合防災盤
・壁掛形
・自立形
・ラック架組込
ガス種別
監視方式
受信機
回線数
副受信機
回線数
検知機電源
警報装置
・都市ガス
・LPG
・()
・単独
・集中
・単体
・複合防災盤(実装/容量)
・単体
・複合防災盤(実装/容量)
・AC100V
・AC24V
・DC24V
・外部出力(・無電圧・有電圧)
・機械室レス
・ロープ式
・油圧式
・()
・乗用
・荷物用
・人荷用
・()
・インバーター使用の場合は、ノイズ対策(フィルター、絶縁トランスの設置)等を行う。
・別図による。
・マンホール、ハンドホール内でケーブルの余長を見込む。2ヶ所
・直埋式の横断箇所は管路とし、その両端は約1mの余長を見込む。
◎標示シート(・一重・二重)
◎埋設標(・コンクリート・樹脂・ビン)
◎一般形
◎耐塩形
基礎(・本工事
◎共用(ケーブル1芯使用)
◎外灯ポールは、垂鉛付着量350g/㎡(JIS H 8641『溶融亜鉛めっき』)に規定するHDZ35)以上の溶融亜鉛めっきを施し、エッチングプライマー、指定色仕上げとする。
・マンホール、ハンドホール内でケーブルの余長を見込む。2ヶ所
・直埋式の横断箇所は管路とし、その両端は約1mの余長を見込む。
◎標示シート(・一重・二重)
◎埋設標(・コンクリート・樹脂・ビン)
◎

年度 設計年月 工事名 大分県土木建築部施設整備課 図面名称 特記仕様書(1) 建築士法第20条第1項に基づく表示 No. (印)

1 機器の標準取付高さは、図面に特記がない場合は、下表による。

測点	取付高 (mm)	測点	取付高 (mm)
共用電力	取引用計器 地上～窓中心 1,800～2,000	時計	壁掛形親時計 床上～中心 1,500(上端1,900以下)
	引込開閉器 床上～中心 1,800～2,200		子時計 〃 〃 (天井高) × 0.8～0.9
電	分電盤 床上～中心 1,500(上端1,900以下)	拡声	時報子時計 〃 〃 2,300
	住戸用分電盤 床上～下端 2,000		壁掛形スピーカー 床上～中心 (天井高) × 0.8～0.9
	スイッチ 床上～中心 1,300		壁付アンテナター 〃 〃 1,300
	スイッチ(住宅) 〃 〃 1,200		表示盤 床上～中心 (天井高) × 0.8～0.9
	スイッチ(多機能化) 〃 〃 1,100		壁付発信器 〃 〃 1,300
	壁付コンセント(一般) 〃 〃 300		ベル・ブザー・チャイム 〃 〃 2,300
	壁付コンセント(和室) 〃 〃 200		壁付押ボタン(一般) 〃 〃 1,300
	壁付コンセント(台所) 台上～中心 200		ｲﾝﾀｰﾓﾈｰﾀﾞｰ 床上～中心 1,300
	壁付コンセント(土間) 床上～中心 800～1,300		ｲﾝﾀｰﾓﾈｰﾀﾞｰ(住宅) 〃 〃 1,200
	壁付コンセント(車椅子用) 〃 〃 900		壁付押ボタン(多機能化) 〃 〃 900
ブラケット(一般) 〃 〃 2,100～2,300	壁付復帰ボタン(多機能化) 〃 〃 1,500		
ブラケット(踊場) 〃 〃 2,000～2,500	壁付復帰ボタン(住宅) 〃 〃 1,200		
ブラケット(鏡上) 鏡上端～中心 150	壁付表示灯(多機能化) 〃 〃 2,300		
灯	壁掛形制御盤 床上～中心 1,500(上端1,900以下)	壁付ﾌﾞﾘｯｸﾞﾗｯｽﾞ(一般) 〃 〃 300	
	開閉器箱 〃 〃 1,500	壁付ﾌﾞﾘｯｸﾞﾗｯｽﾞ(和室) 〃 〃 200	
	操作スイッチ 〃 〃 1,300	テレビ端子・並列ユニット(一般) 床上～中心 300	
	警報盤 〃 〃 1,800	テレビ端子・並列ユニット(和室) 〃 〃 200	
	雷保護	試験用接続端子箱(屋内) 床上～下端 800	機器収納箱 天井下～上端 200
		試験用接続端子箱(屋外) 床上～下端 800	受信機・前受信機・運動制御器 床上～操作部 800～1,500
	受電電	接地端子箱 床上～中心 500	機器収納箱 〃 〃 800～1,500
			発信機 床上～中心 800～1,500
	発電	給油口ボックス 地上～給油口 1,000	警報ベル 〃 〃 2,300
			表示灯 〃 〃 2,100
構内交換	端子盤(室内) 床上～下端 300	ｶﾞｽ検知器(都市ｶﾞｽ用) 天井面～中心 天井面～300 (壁付けの場合)	
	集合保安器箱 天井下～上端 200	ｶﾞｽ検知器(液化石油ｶﾞｽ) 床上～上端 300	
	壁付ﾌﾞﾘｯｸﾞﾗｯｽﾞ(一般) 床上～中心 300	接地端子箱 地上～中心 600	
	壁付ﾌﾞﾘｯｸﾞﾗｯｽﾞ(和室) 〃 〃 200		
	壁付電話機(一般) 〃 〃 1,300		
壁付電話機(住宅) 〃 〃 1,200			

(注) (天井高) × 0.8～0.9は天井高が2,500～3,000mmの場合に適用する。
上記取り付け高さにおいて機器の使用に支障が生じる場合は、監督職員と協議する。

2 施工図等の取扱い
施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。

3 プレート類の刻印

黒文字	電灯	放送	T	V
	動力	表示	火報	
	電話	L A N	防犯	
	時計	インターホン	電極	
	防火戸	警報	ガス警報	

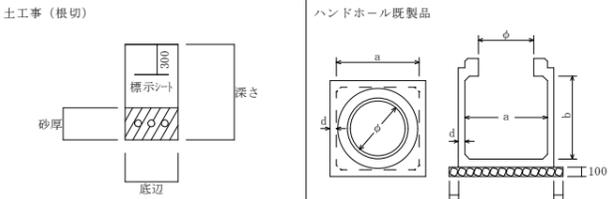
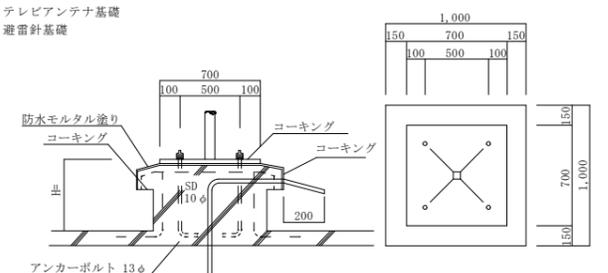
(大きさは7mmとする)

4 接地極
接地極の材料は、下表による。(EBは、D=14、W=40、L=1,500)
(測定用EBは、D=10、W=30、L=1,500)

電	接地の種類	記号	接地極	
			EP-0.9	EB
力	• 共同	E _{A・C・D}	1枚以上	2本以上
	• A種(第1種)	E _A	6本以上	2本以上
	• B種(第2種)	E _B	1本以上	6本以上
	• D種(第3種)	E _D	1本以上	6本以上
	• C種(特別第3種)(10Ω以下)	E _C	1本以上	1本以上
	• 漏電遮断器回路用	E _{ELCB}	1本以上	
通信情報	• 構内交換機用	E _V	EP-0.9	1枚以上
	• 直流電源装置(場極)	E _V	EB	2本以上
	• 保安用(10Ω以下)	E _{SA}	EB	6本以上
	• 保安用(100Ω以下)	E _{SA}	EB	1本以上
	• 拡声用増幅器(100Ω以下)	E _{SA}	EB	1本以上
雷保護	• 電話引込口の保安器用(100Ω以下)	E _{LA}	EB	1本以上
	• 雷保護設備	E _{LA}	EP-0.6	2枚
	• 高圧避雷器	E _{LH}	EB	6本以上
	• 測定用	E _O	EB	1本以上
	•			

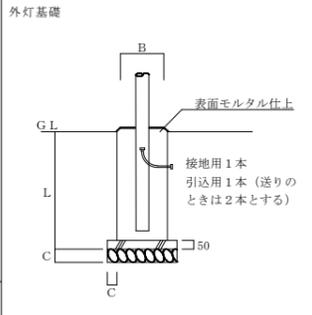
5 配線記号等

記号	名称	記号	名称
———	天井いんべい・ころがし	———	コンクリート貫通部分
-----	床いんべい配線	(キ19)	既設配管(E19)
-----	露出配線	(室名)	直天井の室を表す
——— (PF16)	空配管(PF16)	———	配線保護部分
——— (PF16)	EM-IE1.6×2	F2	EM-EEF1.6-2C 天井内ころがし
——— (PF16)	EM-IE1.6×3	(#)	F3 EM-EEF1.6-3C #
——— (PF16)	EM-IE1.6×4	(#)	F4 EM-EEF1.6-2C×2 #
——— (PF16)	EM-IE2.0×2E1.6	(#)	2F2 EM-EEF2.0-2C #
——— 2C(PF16)	EM-AE1.2-2C	(PF16)	2C EM-AE1.2-2C 天井内ころがし
——— 3C(PF16)	EM-AE1.2-3C	(#)	3C EM-AE1.2-3C #
——— 4C(PF16)	EM-AE1.2-4C	(#)	4C EM-AE1.2-4C #
——— H2C(PF16)	EM-HP1.2-2C	(#)	

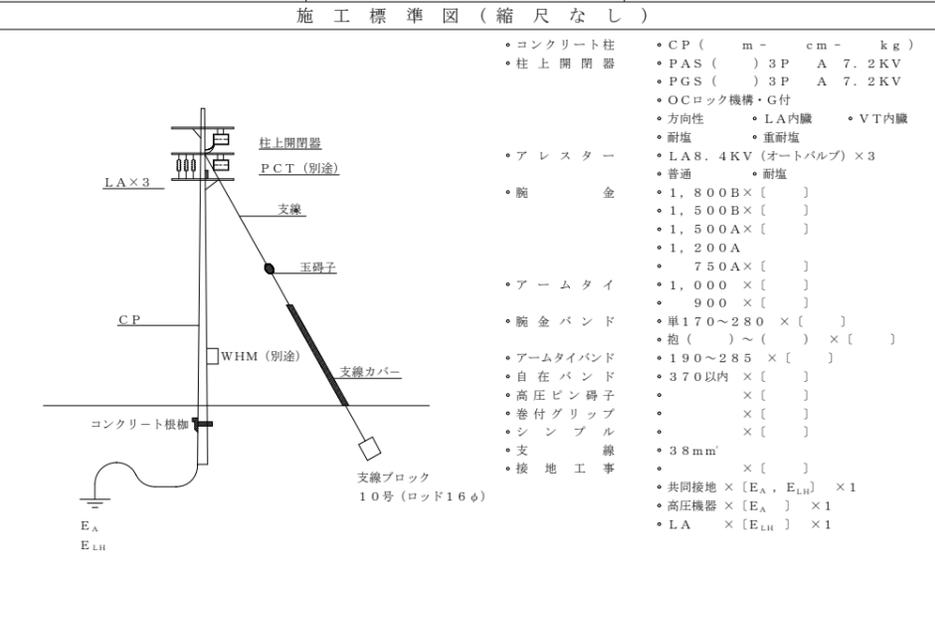


記号	底辺	深さ	砂厚	備考	寸法			
					a	b	d	φ
	300	450	250					
	400	450	250					
	500	450	250					
	600	450	250					
	700	450	250					
	800	450	250					
	300	750	250					
	400	750	250					
	500	750	250					
	600	750	250					
	700	750	250					
	800	750	250					
	300	950	250					
	400	950	250					
	500	950	250					
	600	950	250					
	700	950	250					
	800	950	250					
	300	1050	250					
	400	1050	250					
	500	1050	250					
	600	1050	250					
	700	1050	250					
	800	1050	250					
	300	1350	250					
	400	1350	250					
	500	1350	250					
	600	1350	250					
	700	1350	250					
	800	1350	250					

1 防水型 クサリ付
2 県マーク及び文字入り
3 中荷重 [R2K] : 破壊荷重 20[kN] 以上 (鋼鉄)
4 重荷重 [R8K] : 破壊荷重 80[kN] 以上 (タダ鉄)
※ ハンドホールの構造体標準厚さ(d)は参考値とする。ただし、強度計算上必要な強度が確保されていること。



記号	器種	基礎の寸法		
		B	L	C
	T-3.5	400×400 (500φ)	1100	100
	T-4.5	600×600 (700φ)	1300	100
	T-5			
	T-5.5			



機械設備工事仕様書

I 工事概要

1. 工事場所

2. 建物概要

Table with 6 columns: 建物名称, 構造, 階数, 延べ面積 (㎡), 消防法施行令別表第一, 備考

3. 工事種目 (●印を付けたものを適用する)

Table with 2 columns: 建物別及び屋外工事種目, 工事種別

4. 設備概要 (本工程における、工事種目ごとの概要を示すもので、仕様を規定するものではない。○印を付けたものが該当する。なお、改修の場合は既存概要を示す。)

Table with 2 columns: 方式及び種別, 設備概要

II 工事仕様

1. 共通仕様

(1) 現場説明書 (現場説明に対する質問回答書を含む)、本特記仕様及び図面に記載されていない事項は、すべて国土交通大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書 (機械設備工事編) (平成31年版)」(以下、「標準仕様書」という。)

(2) 電気設備工事及び建築工事を本工程に含む場合、電気設備工事及び建築工事は、それぞれの工事仕様書を適用する。

2. 特記仕様

(1) 章は●印の付いたもの、項目は番号に○印の付いたものを適用する。
(2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。

Main specification table with 3 columns: 章, 項目, 特記事項

25 耐震措置

耐震措置の計算及び施工方法は次によるほか、「建築設備耐震設計・施工指針 2014年版 (独立行政法人建築研究所監修)」による。

(1) 機器の据付及び取り付け
設計用水平地震力は、機器の重量 (自由表面を有する水槽その他の貯槽にあっては有効質量) に、地域係数1.0及び次に示す設計用標準水平震度を乗じたものとする。

Table showing design standard horizontal seismic intensity for various equipment types and building levels.

注1) 上階層・中間階の定義は次のとおりとする。
上階層とは、 2~6階建の場合は最上階 7~9階建の場合は上層2階
10~12階建の場合は上層3階 13階建以上の場合は上層4階
中間階とは、 地階、1階を除く各階で上階層に該当しない階。

注2) 機器種別の欄の「機器」は、防震設置機器、水槽類以外の機器を示す。
重要機器とは、以下の機器とする。
・ ボイラー ・ 冷凍機 ・ 冷水機 ・ 冷却塔 ・ 中央監視装置
・ 空調和機 (・ ユニット形 ・ コンパクト形 ・ パッケージ形)
・ 水槽類 (・ 受水タンク ・ 高置タンク ・)
・ 消火設備機器 ・ 排煙設備機器

(2) 設計用鉛直地震力は、設計水平地震力の1/2とする。

26 配管

(1) 建物導入部の変位吸収方法は、標準図 (建物導入部の変位吸収配管要領) による。

(2) 溶接部の非破壊検査 ・ 不要 ・ 要 (検査の種類: 抜取率 %)

(3) ステンレス配管施工
1) コンクリート壁・床への埋め込み、スリーブ貫通部及びその他躯体との絶縁箇所には、プラスチックテープを1/2重ね1回巻きを施す。
2) 保温のアルミ、ネット、巻き線、菊巻等が直接接触しないように施工する。
3) 地中埋設管は、管を土壌に接触させないように施工する。
4) 地中埋設から地上あるいはビット等に至る管には、出た直近に絶縁フランジを設ける。
5) ステンレス管に使用する60A以上の弁はステンレス鋼弁とする。

27 地中埋設等

地中埋設配管 (排水管を除く)
(1) 地中埋設機 ・ 要 (・ 給水管 ・ ガス管 ・) ・ 不要
(2) 埋設表示テープ ・ 要 (・ 給水管 ・ ガス管 ・) ・ 不要
鋼管についてはポリエチレン製ダブル、樹脂管についてはアルミ製ダブルとする。

28 はつり

既存コンクリート床、壁等の配管貫通部の穴開けは、図面に特記のない場合はダイヤモンドカッターによる。既存躯体に穿孔する場合は、原則として事前に金属探査等を行うこと。

29 塗装

次の範囲内の裸の亜鉛鉄板、配管 (亜鉛メッキされたもの)、吊りボルトは塗装を行う。

30 保温

標準仕様書第2編によるほか、図面に特記のない場合は、下記による。ただし、各工事種目で別に指定されたものは除く。
・ 衛生配管の保温材の種類 (○ 給水管 ◎ 給湯管 △ 排水管 □)

Table for insulation material types for sanitary piping.

Table for insulation material types for air conditioning piping.

Table for insulation material types for ductwork.

・ 屋外露出部 (給水管、消火管、冷水管、膨張管、冷水管、温水管、ドレン管、弁類を含む) は防凍保温を行う。その仕様は標準仕様書第2編3.1.4及び3.1.5とする。厚さは配管の呼び径25mm以下のものは50mm、呼び径32mm以上のものは40mmとする。

Table for insulation exterior of piping.

Table for insulation exterior of ductwork.

31 電線類

電線及びEMケーブルは、標準仕様書 第4編1.5.1 表4.1.11による。

32 吊り及び支持金物

(・ 槽内 ・ 屋外 ・ 地中 ・) の吊り金物・支持金物類はステンレス鋼製 (SUS304) とする。

33 他工事との取り合い

図面に特記なき場合は、No. 「工事区分表」による。

34 施工図等の取扱い

施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。

Bottom summary table with columns: 年度, 設計年月, 工事名, 図面名称, 縮尺, 建築士法第20条第1項に基づく表示, No.

Main table with columns for specifications (章, 項目, 特記事項), equipment types (浄化槽設備, 換気設備, 排煙設備), and a detailed list of items (1. 配管材料, 2. 保温, etc.).

Table titled '凡例' (Legend) listing symbols and abbreviations for piping and equipment, such as '給水管(上水)', '排水管(排水)', and 'ガス栓'.

Table titled '※特記事項' (Special Notes) with a numbered list of specific requirements or notes related to the equipment.

Summary table at the bottom with columns for '年度' (Year), '設計年月' (Design Date), '工事名' (Project Name), '図面名称' (Drawing Name), '縮尺' (Scale), '建築士法第20条第1項に基づく表示' (Representation based on Article 20, Paragraph 1 of the Building Standards Law), and 'No.' (Number).